MONTHLY
かわせみ通信
2月号
2022年2月
Vol.150
発行所 株式会社東海テクノ ECOLOGY & SCIENCE
本社／三重県四日市市午起2丁目4番18号（〒510-0023）
TEL.059-332-5122（代） https://www.tokai-techno.co.jp

未来を拓く企業訪問

SDGsの国際目標　2030年まであと8年。地球の持続可能性は企業としても取り組まざるを得ない目標となってきました。企業責任というだけでなく、企業価値向上など、その方向性は多岐に渡ります。当社がお取引いただいている企業様の表からは見えてこない独自の取り組みについて、インタビューした内容をご紹介し、取り組み事例をお届けいたします。

株式会社REMARE　間瀬雅介様

◆主な事業内容

三重県鳥羽市を拠点に、地元の漁師達と協力し、引き上げられた海洋プラスチックを有価で引取り、唯一無二のアート作品に作り変えることで、海洋プラスチックを新たな資源として人々の生活に寄り添う製品を開発している。
REMARE（リマーレ）とは、「海の循環を作る」という意味

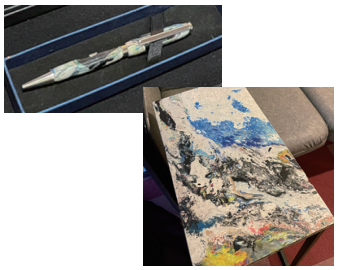
Mission 地球の7割を遊び場に変えるきれいな海を100年後の子どもたちへ。

SDGｓのためにやっているわけではない

海を知れば知るほど理想とのギャップが生まれる

少年時代に自転車で8時間かけて海へ釣りに行ったときの高揚感が忘れられず、自転車では行けない海の彼方への冒険心が芽生えた。高校卒業後に専門学校へ進み、航海士と機関士の資格を取得。世界中の海を巡るなかで、フィリピン沖では島のように大きなプラスチックの山に衝撃を受けた。海洋プラスチックは目の前にあるマテリアルだと感じ、これを活かすために、素材や成形方法を研究した。

環境問題とか SDGs というとネガティブな感じになる



メディアに取り上げられることも多くなったが、自分からはSDGsや環境問題には触れないようにしている。船の上から浮いているゴミを見ると残念な気持ちもあるが、何もない海の上で、見つけたこのマテリアルをどう活かそうかとポジティブに思える。廃棄物問題につながる海洋プラスチックは、金属よりも加工しやすいマテリアル。自分の考えとか思いを表現する手段として、回収し、リサイクルすることで、アート作品にもなる。環境問題を含め、海の現状を知ってもらうきっかけにはなる。自分の想いで行ってきたことが結果的に今の時代に合っているのかも。

作品を作るときの難しさ

オブジェのような大きな作品から、ボールペンやアクセサリーなど細かい作品も。海洋プラスチックと言っても、ポリエチレンやポリプロピレンなど、材質が異なるため混ざりにくく、熱と圧力を加えて溶かすことが難しい。ボールペンのような細い作品は、完成間際で折れてしまうこともあり、作品作りには時間がかかる。自分自身で試行錯誤しながら学ぶことが楽しいと思える。

壮大な海への憧れと挑戦

どこで起業するか検討するなかで、和歌山や石垣島も候補にあったが、ある人との出会いから、鳥羽へ移住。伊勢神宮も近く、人の流れがある。その反面、課題も多く、完璧じゃない。人との繋がりが強く、挑戦していくには良い場所だと思っている。

インタビューの感想

今までもSDGsについて取り上げてきましたが、作品を通じ海洋プラスチック問題の現実を知ることで、型にはめる活動ではなく、間接的に環境問題を提議していく方法もあるんだと考えるきっかけになりました。大人になると夢を語る方にはなかなか出会えないなか、間瀬さんが壮大に夢を語られる姿に、今後も活動を応援したいと思いました。
※2月末まで鳥羽扇芳閣にてアート作品をご覧いただけます。

ココに技あり! ドアスペーサーの活用で換気方法を改善

三密の一つ「換気の悪い密閉空間」を避ける目的で、事務所等では扉を全開にし、空気の入替えをされていると思いますが、扉に近い席の方は寒い思いをされていませんでしょうか。そこで、本社事務所と研修室にドアスペーサーを付け、その効果をCO_2濃度測定で確認をしてみました。扉全開には劣りますが、この方法でも環境衛生管理基準値を満たす換気ができるという結果となりました。この商品は扉の上部に挟むタイプで、使わない時は取手にかけて収納でき、邪魔になりません。セミナー等でご来社のお客様にも安心して弊社研修室をご使用いただけそうです。※来年度のセミナースケジュールは来月の紙面でご案内いたします。お急ぎの方はHPをご参照ください。

東海テクノ 1F 研修室での二酸化炭素濃度測定結果

研修室面積	在室人数	室内状況	CO_2 平均濃度（ppm）
45 ㎡	各長机に 1 名 常時 8～9 名	換気扇稼働 エアコン停止 扉開放	534
		換気扇稼働 エアコン稼働 ドアスペーサー使用	770
建築物環境衛生管理基準　基準値			1000 以下（1atm25℃）

特別企画 スジアオノリを使った料理写真コンテスト開催

当社のグループ会社である「㈱南伊勢マリンバイオ」ではスジアオノリの陸上養殖を行っています。今回、そのスジアオノリ試供品と一緒にお配りする料理例のアイデアを社内で公募し、料理写真コンテストを行いました。美味しそうな作品が多く、選考には時間がかかりましたが、お客様には参考にしていただけそうな作品が集まりました。
このスジアオノリの試供品をご希望の方には先着15名様へお配りいたします。
写真をクリックしてご応募ください。

社員プチコラム

鶴巻　浩（営業本部　開発営業部　部長〈東京開発G〉）

開催中の北京オリンピックでは、長野オリンピック以来のメダル獲得！の話題で盛り上がっていますね。その翌年から前職の転勤により上京した身からすると、そんなに遠い日の出来事だったのかと改めて感じました。確かに前回のコラム（Vol.72号）から6年半、当時中学生だった息子も大人になり、すっかり一緒に出掛けてくれなくなりました。代わりに今の助手席には孫の様な2匹が座っています。東京は意外と公園と緑が多く、天気の良い日にはシートを敷いて一日中過ごせます。孫共々コロナ太り気味の為、コロナと花粉が落ち着き、早く一緒に走り回れる日を待ちわびています。

編集後記

今回ご紹介したドアスペーサーは省エネのためにも、購入してよかった商品でした。東京でタクシーに乗った際、CO_2濃度測定器がついた車両に遭遇したという声も聞きました。寒い時期もあと少しと思いますが、全員が安心で快適に過ごせる環境づくりを目指したいですね。　（みっちー）